

青年部事業所の各種施策・政策活用事例

商工会名	斐川町 商工会		青年部員名	
企業名			代表者名	
企業概要	業種	和菓子製造小売業	設立年	昭和24年
			従業員数	3人
補助事業名	平成26年度補正 小規模事業者持続化補助金	平成26年度補正 ものづくり・商業・サービス革新補助金	平成27年度補正 小規模事業者持続化補助金	テーマ区分(選択) 新商品開発・設備投資・広報・新規開拓・その他()

【施策・政策を活用した経緯】※企業の経営状況、問題・課題等を含め記入

若者・女性経営者研修事業や青年部主催の経営計画作成セミナーに参加する中で、自社について、主要顧客は60代以上のご年配層であるが、新たな顧客獲得を図る上で、若い女性をターゲットにした商品が少ないことを認識。この他、県外販路を目指すすと量産が出来ないこと、および営業力が弱いことに気づき、新商品開発から販路開拓までの具体的事業計画を作成した。事業遂行に向け補助金を活用し、負担軽減からより良い事業に進めていった。

【主な活用内容、方法等】

「平成26年度補正 小規模事業者持続化補助金」を活用し、若い女性をターゲットに豆乳ロールケーキを新商品開発、健康志向のニーズに応え、カロリー表示なども行った。また、店内を店舗改装し世代間交流できるようにした。

「平成26年度補正 ものづくり・商業・サービス革新補助金」を活用し朝生菓子（その日の朝に製造した製品）の品質の向上を図った。包餡機CN020を設備導入、餡の中に液状のもの（クリーム等を入れるのは困難であったが、設備導入により高品質かつ量産が可能となり、県外販路も対応可能となった。

「平成27年度補正 小規模事業者持続化補助金」を活用し、親子客をターゲットに子供が苦手な野菜なども使った「ベジタブル大福」を新商品開発。SNS媒体によるPRの他、看板を店前に設置し新規顧客獲得に取り組んだ。

【活用の成果】

ロールケーキの販売から若い女性客（20～30代）の割合は10%程度増加した。世代間交流できるスペースを設けたため、店内でゆっくりされる方も増えた。

包餡機CN020の導入により、大福シリーズの充実を図っているところであり、大福の売上割合は増加傾向にある。

SNSや看板の設置により営業強化したため、来店者数も5%程度ではあるが増加傾向にあり、そのほとんどは新規顧客獲得の為である。

【活用後の声】

青年部活動に参加し研修会などに出る中で、当店を見直し、将来について考えるようになった。現状を見直し課題を整理することで、「今、何に取り組んだらいいか」計画した。ターゲットを決め、新商品開発にも取り組み、設備投資を行った。営業活動については、これまで積極的に行ってこなかったが、ターゲットの購入、認知度向上にむけ手段を考えながらSNSや看板などにたどり着いた。補助金を活用することで負担軽減にもつながり、非常に感謝している。

写真(3枚程度)



【交流スペース】



【包餡機 CN020】



【店前看板】